

## 「内出血の原因を調べて文書で報告しろ」という家族

### ■「上司からパワハラを受けた」という訴え

Fさんはデイサービスを利用している88歳の女性利用者です。重い認知症と半身麻痺がありあまり発語もなく、利用中もほとんどぼーっとしています。ある日、デイサービスが終了して自宅へ送迎した後、息子さんから電話がかかってきました。

「母の腕に大きな内出血がある。今朝デイに送り出した時には付いていなかったのだから、デイサービスでできたアザに違いない」と言います。職員が「どのような内出血なのですか？」と尋ねると、「今すぐ家に来て、自分の目で確認してください」と言います。

所長と主任でFさんの自宅を訪問し、内出血を確認すると、肘から二の腕にかけて、幅3cm、長さ10cmほどの内出血がありました。色は赤紫色で、輪郭はくっきりしています。主任は「Fさんはワーファリンを服用しているため、内出血が止まりにくいことがあります」と説明しました。

すると息子さんは、「そんなことは私でも知っている。どこに、どのようにぶつけたのか、原因と再発防止策を文書で報告してほしい」と言います。さらに、「アザでも傷でも事故なのだから、きちんとした説明がなければ役所に報告する」と話しました。

## 内出血の原因が分からなければ推定して報告する

### ■内出血の原因はどのように調べたら良いか？

いつの間にかできた傷やアザを、よく「原因不明の傷・アザ」と表現します。しかし、原因が不明なだけでなく、事故状況も不明であるため厄介です。目撃者がおらず、本人が認知症であれば、確実な事故状況を知ることは永遠にできません。事故状況が不明であれば、原因分析も再発防止策の検討も難しくなります。



そのため、原因不明の傷・アザについて家族へ説明する際のポイントは、「いつ、どこで、どのような物に接触したのか」を推定し、それをもとに原因分析と再発防止策を検討することです。では、どのように事故状況を推測すればよいのでしょうか。

### ■受傷時間帯を推定する

まず、「いつできたアザなのか」、すなわち受傷時刻を推定します。受傷時刻の推定で最も重要なポイントは、「発見時よりどれくらい前に受傷したのか」という点です。本事例では、所長と主任が確認した時点で「内出血の色は赤紫色で、輪郭もくっきりしていた」とのことですから、受傷からあまり時間が経っていないと推定できます。デジカメで患部を撮影しておけば、後により正確な推定が可能になります。

次に、「アザがなかったのはいつまでか」を調べます。例えば、デイサービスで入浴介助を行った際にアザがあれば気付くはずですから、入浴介助から帰宅までの間に受傷したと考えられます。この受傷時間帯の介助状況などを検討すれば、受傷場面をある程度推定することが可能です。本事例では、帰宅の準備や送迎時の移動介助などの状況を検証し、受傷場面を特定すればよいのです。

### ■他物との接触状況を推定する

受傷場面の推定と同じように重要なのが、「他物との接触状況推定表」を使って接触物を推定することです。どのような物に接触したのかは、傷やアザの形状が手がかりになります。丸いものにぶつかって内出血すると、皮下の深い部分で内出血が起こるため、ぼんやりしたアザになります。一方、尖ったものにぶつくと、皮下の浅い部分で内出血が起こるため、くっきりしたアザになります。内出血の場合、接触時に皮膚にも傷ができていますので、これも推定材料になります。

【他物との接触状況推定表】



発行責任者

あいおいニッセイ同和損害保険株式会社  
マーケット開発部 市場開発室  
担当 森田・山口 TEL 050-3462-6444

監修 株式会社安全な介護 代表 山田 滋

担当課・支社 代理店